

早期療育支援ネットワーク研究会を開催しました。

岐阜県の発達障がい者支援体制整備事業として平成20年から5年間実施していました早期療育支援ネットワーク研究会事業を引き継ぎ、今年度もいかわクリニック院長・児童精神科医師、井川典克先生、西濃圏域発達障がい支援センター中野たみ子先生、中濃圏域発達障がい支援センター浅野和枝先生をお迎えし、公開療育を実施しました。当日は、教育委員会関係、幼・保育園関係、療育機関職員、保健師等80名程の参加がありました。

公開療育には、6名の年長児に3名の療育指導員があたりました。



参加者からは

- ・ “診断なき支援を必要とする時代”、まさに連携を密にし、目の前の困り感を持つお子さんへの適切な対応を学んでいきたいと思いました。
 - ・ その子にとって、その家族にとって一番必要とされている支援は何か？を考える為にその子の得意なこと、苦手なことを把握し親さんと一緒に考えていくことが大切だと改めて気付くことができました。
 - ・ 静と動のメリハリのある提案と、一人ひとりに対する丁寧な声かけを保育現場でも取り入れていきたいと思いました。
- 等のご意見をいただきました。

助言者の先生からは

- ① 指示に上手く応じられない時に指摘するのではなく「どうするんだっ？」等のことば掛けで想起させ、自分で気付くことが大切である。

- ②集中が切れてしまった時は、注目させる方法（手を叩く・背伸び・誰かを褒める等）、活動のペースを変える、活動の内容を変える、…等の工夫をする。そのためには、子どもの集中できる時間や遊びを把握しておく必要がある。
 - ③今、何をするのがわかるように、誰の指示を聴くのかを明確にする必要がある。
 - ④診断なき支援を必要とする時代にきている。「その子にとって何が必要か」「その子に何を配慮するとよいか」「実際に、その子に何をしていくか」を考え、それを踏まえ、その子に合った支援を受けるにはどこで学ぶとよいか…について保護者と話しあっていく合意形成が大切である。
- 等、わかりやすく具体的にお話しくございました。

指導の公開を承諾くださいました保護者の皆様、ご参加いただきました皆様、本当にありがとうございました。皆様からの貴重なご意見は、今後の療育現場に活かしていきたいと思っております。

私たち、もとす広域連合幼児療育センターは、これからもお子さんの健やかな育ちを支える療育機関でありたいと思っております。